

100キロマラソンじゃあ〜なる

5265

1984年9月15日第1号発行〜

997-0826: 鶴岡市美原町30-24

☎0235(22)3669

090-2986-7724 携帯

2009年12月24日



走ってきました、ホノルルマラソン('09.12.13)

「ホノルルマラソンへ行こう」そんな話が聞こえて来たのはいつ頃だったか。まだ私には無関係な話だった。大会に出ることにすれば、それに向けてそれなりのタイムを出すために練習しなくてはいいけない。苦しいのは嫌なのだ。でも、ちょっと興味があった。ど素人の私でも知っているホノルルマラソン。海外のマラソンといえばホノルルといっても過言ではない。しかも、制限時間がないという。フルは走れるだろうが、タイムが問題な私にとってそれは魅力だ。おまけにその時期仕事がない。みんな、どうやって仕事を休もうか四苦八苦してるのに、だ。ホノルルマラソンは毎年あるが、だからってまた来年みんなで行けるとは限らない。ましてや、自分一人でなんて、絶対行かない。…これってチャンスなんじゃない?! とりあえず、参加を考えてる人達が集まると聞いて、行ってみることに。気持ちは8割方行く方に。走力? そんなの二の次、何とかなるさと簡単に考えていた。

モーニングコールが鳴る10分前位に目を覚まし、支度を始める。同室の人と洗面所などがちか合うといけなないので、早めに使ってしまったかった。一通りの支度を終えて、頼んであったお弁当で朝食を済ます。揚げ物は食べない方がいいとみんなが言っていたので、そんなものかと思ひ、魚とご飯だけ食べた。冷蔵庫に入れておいたので、ご飯がおいしくない。生野菜も消化は良くなさそうだが、おいしかったので食べた。バナナはまだ青くて皮が剥けない…。無理矢理、齧って皮を剥く。窓を見ると外はまだ真暗。スタート地点へ向かうシャトルバスがズラッと並んでいるのが見える。

3:15にみんなで集合。シャトルバスへ乗るため、パークショアホテル前の広場に向かう。思った程寒くないので良かった。アラモアナ公園について同じツアーの人達とストレッチをしたり、気合を入れたり、記念写真を撮ったりしながら、スタートを待つ。ここで今野先生に会う。同じツアーで来てることを知らなかったのが、驚いたと同時に嬉しかった。いよいよアラモアナ通りに出て、本当にスタートに備える。みんなで、予想タイム3時間半のところに並ぼうと話していたが、どんどん先を行く菊地さんに、石川夫妻と共に付いて行ったら、他の人達とははぐれてしまった。そして、やけにすいてるそこは2時間台ゴールを目指すラインらしかった。おこがましいとは思ったけど、今更後ろにも行けないし、私一人位遅く走って邪魔にはなるまいと開き直る。5時でスタート。号砲と共に走り出す。なんと、スタートラインまで20秒! なんてとこから走り出してしまったのかしらと改めてびっくり。噂の花火がとっても綺麗。でも、スタート位置が良すぎたので、見える方向がどんどん横になり、後ろになり、最後まで見られなくて残念で、もう少し後ろからの出発でも良かったかな…などと罰当たりな事を思う。でも、全然混んでないので、自分のペースに持っていく易くて助かる。4人でスタートしたものの、とっくに先に行っていた菊地さんがすーっと寄ってきて「随分緊張して硬くなってるな。周りに釣られずゆっくり行けよ。」と言い残して走り去って行く。緊張? そうかな。スタートすると、始まってしまった〜といささか憂鬱な気分になるのが常だったが、今回は、ホノルルだ〜♪とウキウキしていたのに。「私はここをこのペースで真直ぐ進みます。速い人はうまく私を避けてください」などと自分勝手な事を心の中で呟きながら、going my wayを誓う。カピオラニ通りに入り、カラカウア通りに入り、昨日歩いたなあと見覚えのある景色が次々と。空を見上げればビルの上に綺麗な三日月が。それを追いかけるように走る。ワイキキビーチにある宿泊先のホテル前まで来て「昨日、往復歩い

足痛くなったけど、走るとあつという間だなあ。足の裏も痛くないし、歩くと走るではつく場所が違うのかななどと呑気に考える。しばらくと10キロの表示。ピーピー計測の音(?)が鳴っている。私もちゃんとカウントしてね。1時間6分位かなあ。なんと! 10キロ超えたので、足の裏が痛くなってきた…。やっぱり昨日歩き過ぎたかあ。まあ、いいや。ホノルルに着いた時点でもう記録はどうでもよくなって、こかくせつかなんだから楽しもうと思っていたし、あとは完走目指すのみ! 白々と夜が明け始めた。頭に浮かぶのは、「夜空のムコ」の歌詞。♪夜空の向こうにはもう明日が待っている〜って感じだよな! 明日ってのは希望で、つまりはゴールだよななんて考えながらウフフと思う。昨日の朝、練習したダイヤモンドヘッドの坂に差し掛かる。往路と復路を分けるため、子供たちがテープを持って道路真ん中に立っている。みんな、口々に「Good job!」「Enjoy!」などと応援してくれる。「Enjoy!」に至っては「えっちゃん!」に聞こえて嬉しくてしょうがない。そんな彼らとタッチしながら走っている人々がいるじゃないか! 「私もするう!」真ん中に寄って行って数人とタフ! 大満足! 9マイル辺りで、そろそろなんか口に入れたいなと思えど、周りを見てもそんな人いないっほい…。あれ、邪道? いいや、は塩飴を舐めて、次の給水所で食べよう。しかし、水を持ちながらではソイジョイが開けられず、やむなく脇に寄り、休憩しつつ半分食べる。食べたという安心感で少し元気が出る。ハイウェイに上る辺りで、バナナを配っていた。私の位置からは随分真横に横切らないと取れなかったが「私も食べる、食べるう!」と無理矢理貰いに行く。よく見るとオレンジの皮も散乱。オレンジもあつたのかあと悔しい思いを繰り返す。「マラソン1年生」という漫画で見たワセリン隊がいたのは、ここより前だったかな。話のタネに貰いたかったが、思いがけず現れたので貰い損ねた…。残念。ハイウェイを走り始めてすぐだったように思うがこの頃は疲れ始めて記憶が前後しているかも知れない。「シャイニング!」というツアーで決められた(?)合言葉を掛けて私を抜いて行く人が、王子だった。やっぱり、仲間に会えるのが元気になるなあ! しかし、今王子に抜かれたということは、既に他の人からも抜かれているのか? 見れば反対車線はトップが来始めていたので、真ん中に寄り、折り返して来るであろう仲間を待ち受ける事にする。誰かを積極的に見つけようなどと思うのも珍しい。いつか、自分が走るのでもいいから。かなりゆっくり走っていたから出た心の余裕かも知れない。13という表示が見えた。13マイルって…とぼんやり計算しかけて「あ! ハーフだ。なんだ、もうハーフかあ。」と思った。あとこの倍かと思わずに済むのも珍しい。ホノルルマジックか? すれ違う人には拍手を付けて軒並み声を掛けた。日本人でも外国の人でも、お構いなしに全部日本語。「わー、頑張れ〜♪」周囲の人の真似とはいえ、こんなことも普段ならしない。そうこうしてるうちに、あ! 見つけた! 「門間くん! 頑張れ!!」発見の瞬間が若干遅れたためか、彼が余りに真剣に走っていたからか、気付いてもらえなかった(無視された?)。残念。次こそは! 目を10のようにして見ながら走る。来た、来た! 今度は絶対気付いて貰わねば! 大きい声で「菊地さん!」「おお、頑張ってるな!」などと話成立。次は…などと考えていたら逆に「えっちゃん!」声が掛かった。八幡さんだった。あとは誰が来るだろう。そう思っているうちに、くる〜と回って折り返す分かれ道コースに突入。ああ、もう誰にも会えなくなった…。この頃になると、コース脇に寄って、ストレッツをする人も多く見掛ける。なんだ、みんなも足痛いんじゃない。安心する。コース上に家がある人達は結構外に出て、応援してくれる。嬉しいなあ。ある家の坊ちゃんが、お菓子を差し出してくれる。やった〜♪「Thank you!」「You're welcome」うわ〜、異国チック! このツアーではペースメーカー的な人がいるらしく、風船だのと共に4:30だの5:00だの付けた人が走っている。この人に付いて行けば5時間切れるのかあと思ったがちよっと無理みたいだった。驚いたのは、その後を真面目に付いて行く人がソロソロいることだ。〇間で走りたという目標があるんだらうから、賢い手段なのかも知れないけど、人に作って貰ったレースで楽しいのかな…なーんて生々しい感想? 段々、日が高くなり、日差しも強くなって来る。朝塗ってきた日焼け止めは、汗だの水だのととっくに落ちてしまっているだろう…。あ、そうだ。塩舐めよう。顔や腕はザラザラしているので相当量の塩分が抜けているはずだ。さすがにそれを還元する訳にもいかず、持って来た塩を指に付けて舐める。スポンジで顔や腕や足にも水を掛ける。腿が気持ちいい。足疲れてるのかなあ。前述の漫画本にストレッチは景色のいいところでした方がいいと書いてあったので、載っていた写真を思い出しながら、道路脇でストレッチ。い、痛! 伸ばしても縮めても痛いだけで、ちっともすっきりしない。早々にやめて走り出すが、それもまた痛い! だめだ。私にストレッチは不要だ。マイル表示がある度に気を紛らわすためにキロ換算していた。頭も疲れているので「え〜、10マイルで16キロ+8キロで24キロ、あと8×0.6キロ足して…」などと考えていると半分位進んでしまう。お、次で30キロじゃん! そうこうしてるうちに30キロの表示。あと1キロだ! ん〜、この感覚はいいね。もしかして行けるかも? と時計を見れば、3時間48分。えええ? 30キロで? 遅すぎない? だって、

100キロマラソンじゃあ〜なる

5266

997-0826 鶴岡市美原町30-24

☎0235(22)3669

090-2986-7724 携帯

1984年9月15日第1号発行〜

2009年12月24日



この間の三時間走の計算で行けば…。だってじゃあ今から12キロを1時間で走らなきゃ5時間は…。考えているうち、19マイルの表示。やった。400m進んだ。もう、いいや。別に何時間だって。周りの人だって、似たような時間でゴールするんだから。私がひどく遅い訳じゃない。そう思ってしまったせいか、急に足が動かなくなってきた。ホノルルを楽しもう、楽しいという気持ちは無くなってないんだけど、私、もうだめなのかなあ。これって、潰れたってことなのかなあ…。しょんぼり走っていると「やあっと追い付いだ〜。どっから走ったな〜？」と声が。おお！白幡さん！地獄に仏！（大袈裟）どっから走ったって、一応最初から走ってる…ああ、そういう意味か。「なんか、2時間台のラインからスタートしたんですよ〜」という「んだろの〜！あと少しだから頑張ろう！」と爽やかに駆け抜けて行く。よし、頑張ろう！しかし、付いて行くことはもはや不可能。ダイヤモンドヘッドの坂道を登る人々の波に紛れて見えなくなっていった。坂を登り切ると、あとは、昨日練習したコース。なんだけど…。下り坂、キツイなあ。私って、下り苦手なのかも。ふと見れば、下りでも歩いている人もいる。私も、歩いちゃおう、か、な？でも、元々歩くのも遅い私は歩き出すと、まだ見えてもいないゴールが急に遠くなった気がした。これじゃだめだ。もうみんなゴールしたよなあ。ノロ走り歩きを繰り返して、坂を下り切ると住宅街みたいになって、なんとなくゴールの匂いがして、歩く人も少ない感じ。私も歩かずに行こう。あら？ここカピオラニ公園かしら？ホノルルに着いた日のツアー主催のイブニングランで一緒になったおじさんがしきりに言っていた「ここからが長かった」のはこの話だったかしら。直線になり、遠くにゴールが見える。やった〜！とうとう来た〜！ん？よくよく見れば私がゴールと目指していたのは「夢に見たゴールはもうすぐ云々」と書かれたただの応援の横断幕であり、FINISHのゲートは更に奥。うそーん。なんだかいつもこのパターン。この微妙な距離が精神的にキツイ。ようやくゴール！エイエイ！と手を上げ、カメラ目線でゴールしたために、時計を押し忘れ、電光掲示板もよく見えず通過…。そのまま、貝殻のレイを貰いに行く。ハンサムボーイから貰いたかったが、タイミング合わず隣のかわいいこちゃんから貰う。ほーっ！と一息付いてると、よほどへろへろだったのか、大丈夫？と声が掛かる。多分外国人スタッフだったから、英語だったかも知れないが、雰囲気ですら聞かれたとわかる。大丈夫と笑顔で返し、シャワーに向かう。うわー、気持ちいい。心行くまで浴びた後、ソロソロと歩く人波に合わせ、フィニッシャーTシャツを貰うべく歩き出す。が、途中、ついて行く人を間違えたらしく、裏なとこに、Tシャツ、どこ？バルーンが上がっていたらしいが、気付いていなかった。ウロウロしていると、食べ物を配ってるテントが、クッキーとリンゴを貰う。腹減ったなあとクッキーをボリボリ食べながらさまよう。みんなと待ち合わせる、ツアーのテントからはどんどん遠くなるし、どうしよう。やっと、メダルとTシャツを貰い、今度はツアーテントを目指す。結果を張り出してあると思いきや掲示板があって、一瞬足を止める。みんな必死になって名前を探しているみたいだ。私も…いやいや、ただでさえ遅いんだから、もしかしてみんな心配してるかも知れない。とりあえず行こう。何より、そんな細かい字を見る気力がない。歩いて行くと、白幡さんが手を振っている。あつた、テント。受付を済まし、おしぼり、ジュース、果物、豚汁あとからカレーにチョコ、貰えるものは何でも貰う。腰を下ろすと、ホッとする。しばらく休んだ後、またみんなで、ソロソロとホテルへ向かう。ああ、終わっちゃったんだなあ。ホノルルマラソン。記録は私の時計で、5時間8分50秒位。スタートゲートまでの20秒とゴール後押し忘れた大体時間を差し引いて、だ。でも、翌日見せてもらった新聞では5時間9分3秒だったから、そうなのかも知れない。まあ、いいや、どっちだって。ちなみに順位は6859位。可もなく不可もない感じ？とにかく、後半はつらい部分もあったけど、とても楽しい大会でした。走り終わってみれば楽しいってのはよくあるけど、最初から最後まで楽しいと思えたのは初めての経験です。

素晴らしいことです！

取加スカリ〜5K.10K

場予定

09年100KmMarathonAssoイベントBEST8

1	415点	菊地光男	○	305点	石川さつき	○
2	343	押井弘	○	261	粕谷砂知子	○
3	288	疋田洋昭	○	235	奥山美樹	○
4	257	中野俊一	○	231	岩浪悦子	○
5	217	佐藤繁美	○	221	加藤久美子	
6	195	若林章		160	宮守恵里	
7	182	五十嵐豊		150	渡邊玲奈	
8	125	加藤善宏		119	忠鉢美和子	○

○は望年会出席者

年間イベント：3時間走、マラニック、100キロマラソン大会、チャリティ時間走
100キロマラソンじゃあ〜なる投稿が対象

2009年のラストイベントチャリティ3時間走は夜来の雨模様を心配して
状況によっては時間短縮も取得することを承知し寛い形ですスタートした。
雨は止んだものの寒さはきつい、続々と集結するメンバーには熱気すら感じ
られる。やはり若者が多くなると高令者集団とは一味異なる雰囲気になるも
のらしい。100キロASSとしては歓迎すべき方向性に向かいつつあると思
える。有難いものだ！

今回は出走人数が増えたこともあり、周回キックを担当したSさんやOさん
にはいつも以上のご苦労をおかけの気がします。ありがとうございました。早目に
撤収したので都合のいい人だけでお茶会(コーヒー)をやりました。走った疲れも見せ
ず皆さんにたいに盛りあげました。

チャリティ時間走参加者結果表

09年12月23日 曇り時々小雨

(2)

小真木原運動公園周回

参加者氏名	周回	距離	備考	参加者氏名	周回	距離	備考
若林章	30	28.8K		宮守恵里	22	21.1K	
門間久幸	17	16.3K		佐藤弘美	15	14.4K	
木村光希	21	20.2K		伊藤恵理	10	9.6K	
佐藤佑樹	21	20.2K		大谷葉子	14	13.4K	
加藤善宏	20	19.2K		岩浪悦子	19	18.2K	
押井弘	26	25.0K		粕谷砂知子	17	16.3K	
五十嵐経一	23	22.1K		加藤久美子	25	24.0K	
石川行徳	18	17.3K		本間千恵	24	23.0K	
八幡晋	21	20.1K		石川さつき	23	22.1K	
疋田洋昭	12	11.5K		疋田美佳	11	10.6K	
後藤拓馬	12	11.5K		佐藤千秋	4	3.8K	写真 記録
菊地光男	23	22.1K		奥山美樹	-	-	
岡部秋彦	-	-		チャリティ額	: 25,100円		

差し入れなど：三平汁(ゆき器)豚汁(味噌汁)手作りパン(縮)

(12月25日プリント発送)